

猛暑に冷風 そうめん流し ~地域交流会のご尽力で~

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

東京2020パラリンピック競技大会パワーリフティング72kg級に宇城元選手が出場される。洲本市中川原町出身。いつもふくろうの郷の地域交流会で大変お世話になっている宇城守さんの息子さんです。日本で開催されているが、8月28日(土)午前11時〜テレビ観戦。入居者・職員と彼の勇姿を応援したいと思っています。



▲「おいしいよ!」と、夜久さん

日本各地で災害が起こるほどの豪雨が続く中、前日の準備日は小雨、当日はまさにそうめん流し日和の晴天に恵まれました。猛暑の中、地域交流会の方々が前日から竹の伐採から組み立ての準備にと連日ご協力いただき、お陰様で無事に行うことができました。

暑い中で食べるそうめんはやはり格別で、普段食の細かい方でもたくさん召し上がっていただけました。このご時世ですので、密を避けたり衛生面を考慮しながらの行事となり、大変な面もありましたが「おいしい、おいしい。」と言って食べてもらえると、職員一同頑張った甲斐があつたと心から嬉しく思います。

盛況に終えることができました。と、ご参加いただきましたすべての方々に重ねて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

(生活援助員 中村 茂男)



◀「私にも入れて!」と、松崎さん

就職プレゼンテーション ~学生に魅力をどう伝えるか?~

7月14日(水)、兵庫県老人福祉事業協会主催の就職出前プレゼンテーションが神戸リハビリテーション福祉専門学校で開催され、淡路ふくろうの郷も参加してきました。阪神地区の12の施設が参加し、それぞれの特徴やアピールポイントをプレゼンしました。淡路ふくろうの郷は聴覚に障害のある方に配慮した施設であることを中心に、各種行事やふくろう大学などの取り組みについて話をさせていただきました。

現在の福祉業界は売り手市場であり、学生の皆さんからの質問も入職後の新任職員研修の取り組み方や具体的な内容についての質問、勤務時間や休日、福利厚生についての確認など、現実的な内容が多く、より良い施設で働きたいという思いを強く感じました。そんな状況の中、学生から選んでもらうには何が重要なのか?やはりそれは聴覚障害者に配慮した施設としての取り組みを知ってもらうことでしょう。他とは違う、淡路ふくろうの郷ならではの部分に興味を持ってもらうことがこれからの人材確保には重要だと感じました。また参加する機会があれば、その点をよりアピールできるようなプレゼンにしたいと思います。(生活援助員 岡本 洗一)



▲熱心に説明を聞く学生たち

ふくろう物語 平野 太 様



昭和27年か28年頃(22歳)に奥様とご結婚をされ娘様と息子様に恵まれました

昭和27年か28年頃(22歳)に奥様とご結婚をされ娘様と息子様に恵まれました

を目の前に置かないと食べ始めなかつたそうです。地域の方たちからは、「昔から何か困ったことがあったらいつでも相談していいよ」と田んぼの

朝の会や行事などへの参加の言葉かけを行うと、「ほな 行こか。体操やな」と快く参加してくださいませ。朝の会に参加した後、時々車いすを自操され「ここは介護職員室か」、「ここはリネン庫」と壁に描かれた札を読みながらユニットまで戻

昭和5年2月11日洲本市中川原町で5人兄弟の3番目にお生まれになりました。お兄様お二人は他界されていますが、妹と弟様は健在です。

性格は、おとなしく目立たない。口数も少なく仕事一筋な方で、ご家族で旅行など行かれた覚えがなく息子様は太様に怒られた記憶がないと話されています。

平野様は、とても穏やかな方でいつもニコニコされています。釣り番組を好んで見えています。職員との会話に返事を返してくれませんが、高齢になられて、複雑な会話のやり取りは難しくなっています。

コミュニケーションをより深めるために

全国手話検定2級合格を目標とした学習会が始まり、7月27日に2回目を開催しました。多くは既に3級を合格している中で、今回が手話検定初挑戦の新入職員もいて、期待が高まります。長年勤めている職員も「普段の業務で使う手話しか知らないから、勉強になる」と励んでいます。

2級合格の目安は、仕事の打ち合わせなどが手話でできるレベルということで、ろう職員と健聴職員がよりよい仕事を実現できる助けとなるような学習会にしていきたいです。

(障害者生活支援員 川満和則)



お仕事は、農業と兼業で電話の配線などの仕事を定年の60歳まで勤めましたが、定年後も働いて欲しいと切望され、70歳まで勤め上げられました。退職後は農業に励んでおられ、2〜3年前までは畑の草むしりなどされていたことでした。

令和2年1月に褥瘡の悪化により入院。高齢夫婦世帯ということもあり、同年5月にふくろうの郷でロングシヨートを利用されていますが、令和2年11月8日川ユニットに入所されました。

施設の桜が満開に咲き散歩に出かけた時は、「わあ、立派な桜やな。きれいやな。」と話されています。

在宅で生活されていた時のように、地域の方々との交流を図りながら、安心して過ごしていただけるようお世話をさせていただきます。

生きた時代・社会

- 昭和6年 満州事変
- 昭和20年 原爆投下・終戦
- 昭和22年 中川原小学校と改称
- 昭和27年 日米安保条約
- 昭和28年 NHKテレビ放送
- 昭和41年 淡路鉄道廃線
- 平成2年 バブル経済崩壊
- 平成7年 阪神淡路大震災
- 平成10年 明石海峡大橋開通

(生活援助係 須藤真奈美)

「褥瘡の発生・対応について」
健康看護係 佐々木看護師



7月27日(火)職員研修時に褥瘡委員会の佐々木看護師が講師となり、褥瘡の基礎知識についての講義と実習を実施しました。
褥瘡発生リスクを的確に評価し褥瘡発生を予測し、予防のための様々なアプローチが必要です。体位変換や適切な体位の基本と手順については姿勢の管理のみならず、快適性や尊厳までも考慮することを確認しました。

実習は実際に職員がベッドに横になって、頭部を上げた際に、下にずれる感覚・自分で動きたくなる気持ちを理解する。逆に下げた際は、ゆっくり操作しないと、気分が悪くなる。平らにしてしまうと、頭が下がっているように感じるので少し上げておく感覚を体感することができました。
踵の褥瘡については、枕やクッションでの除圧の仕方についても実践しました。
臀部からふくらはぎにかけて均等に圧がかかるようにクッションを入れる。一部だけに入れると緊張して強ばってしまうので少なくとも膝・ふくらはぎに入れる。
職員の感想では、除圧しているつもりが、逆に痛みが発生し、入居者の気持ちを理解することができた。今後は意識して入居者ひとりひとりの状態に合わせた対応を考えていきたいとの声がありました。(生活援助員 實生貴之)

新型コロナワクチン接種について

入居者については、6月上旬と下旬に2回の接種を終えています。法人職員(島内勤務)につきましても、副反応を考慮して5グループに分けて7月上旬と8月上旬の2回の接種を無事に終えることができました。ワクチン接種は感染時の軽減を図るものなので引き続き感染対策に努めていきたいと思えます。ご理解ご協力の程よろしく申し上げます。

(感染対策委員会 渋谷裕子)

8月・9月 ふくろうの暮らし

- 8/17(火) ふくろう大学絵手紙
おのころパン出張販売
- 8/18(水) ふくろう喫茶
ふくろう花火大会
- 8/20(金) 回想法
- 8/27(金) ふくろう大学料理講座
ふくろう大学書道講座
- 8/29(日) 地域交流会案山子作り
- 8/31(火) 手話講座
- 9/ 1(水) 誕生会
- 9/ 6(月) ふくろう理髪店
- 9/ 7(火) ふくろう大学演劇講座
- 9/10(金) ふくろう工房手芸

より良い口腔ケアを目指して

～歯科衛生士による指導～

協力歯科医院の奥井歯科医院(洲本市)より歯科衛生士2名の方が来訪してくださり、木ユニット10名の方の入居者様の指導をしていただきました。当たり前のことではありますが、一人ひとり歯の状態が違っており指導していただく中で、改めて一人ひとりの歯の状態を知ることが出来ました。

例えば総入れ歯の方です。ただ、入れ歯をきれいにするだけではなくその方のあったスポンジやガーゼを使用し、汚れや残渣をきれいに取り除く事で病気や誤嚥を防ぐことが出来ますが、そのことの大切さを再確認することが出来ました。

自己にていつも歯磨きをされている方は、磨き残しの部分を指示していただき、実際にその場で歯磨きをしていただきました。歯ブラシを今までは横から当てて磨かれていましたが、縦に当てて根っこまで磨いていただけるよう指導していただきました。入居者様に、「どうですか?明日からもこのようにお願いしますね」と指導後に言葉かけをさせて頂くと、笑顔で「なるほど、わかった」と話していただきました。

現在、口腔ケアは就寝支援の際に行っていますが、今後は、昼食後にも口腔ケアの支援し歯の状態を保っていくとともに、病気や誤嚥等の事故を防いでいけるよう支援していきたいです。

(生活援助係 溝 恵梨香)



▲さすがプロの役者の表情で話す庄崎氏

社会生活教室が7月11日(日)に洲本市総合福祉会館で開催され、16名の参加がありました。

今回はプロの俳優であり演出家としても活躍されている庄崎隆志氏に来ていただき、日本ろうあ連盟50周年記念映画「ゆずり葉」の制作秘話をお話いただきました。庄崎さんは映画を撮影するにあたり総合プロデューサーと主役も担われたそうで

当時40代の庄崎さんは、高齢者や大工経験者から昔の生活や手話を学んだり、また貧しい時代の生活様式を日常生活に取り入れたり食事内容も変えるなどで体重減をするなど役作りに励んだそうです。



▲ワークショップで熟演の赤井さん

初めのろう者による映画「ゆずり葉」制作秘話を聞く
第3回社会生活教室

す。この映画では長い間字幕がないためろう者が日本映画を楽しむなかつた歴史に鑑み、字幕を付け、また一般の人もろう者への理解を広められる内容のものを作りたかった。そのために一番苦労したことはろう者にとって初めての映画作りのため専門知識がなく映画会社の支援も得て実現できたことです。

講演のあとワークショップに移動しました。庄崎氏の「役者は楽しくない」という言葉に乘せられ、「私のことがわかりますか？」というセリフを喜怒哀楽の感情に分けて、指名された赤井さん、斎藤勇さん、奥井大さんが3人3様の、まさにその人らしく演じ分けたろう者の思いが聞け、また仲間が集い、プロ俳優の指導のもと、体を動かし、コロナの暗い世相を吹き飛ばす楽しいものとなりました。

淡路聴覚障害者センター 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館3階

手話奉仕員養成集中講座 (7・25)

講師は兵聴協理事で当法人の理事も務める仲井正さん。「聴覚障害者福祉とは」というテーマでお話いただきました。

島内の奉仕員養成講座で学ぶ4会場から24名が参加しました。仲井さんが受けた壮絶なろう教育によって敵と思っていた聞こえる人による手話通訳を介して、聞こえる人と信頼関係を築き、その後のろう運動に結びついていった話に耳を傾けました。

～手話ほのち～ 「聴覚障害者とは」

参加者の西村修治さんは「国の政策教育の怖さを初めて知りました。障害のことを知らない人からは差別的なことは現実にはある。このような講座があることを広く一般の人に目に触れてもらい、無関心の方々に少しでも振り向いてもらえるよう発信し続けていく事が大事であると思う」、また伊東秀美さんは「何不自由なく生きてきた私にとって衝撃的な話でした。これからも少しずつでも学びかかわっていきたい」と感想を寄せてくれました。

登録手話通訳者・要約筆記者実務者会議

7月25日(日)洲本市総合福祉会館で今年度初の実務者会議が開催されました。

「手話通訳者の育成はどうしているか」「コロナ禍で起こった事例を通訳者で共有したい」等が議題として上がり、また不参加の方からも「障害者差別解消法が改正されたが、課題や通訳者の対応について学びたい」「難聴者の会員が増えない。難聴者が集まり、交流の場がつかれないか」との要望も出されていました。

高齢により登録を辞退する通訳者も増えており、逆に新しい登録通訳者が増えていません。通訳者養成が緊喫の課題となっています。センターとしても工夫を凝らし、通訳者養成、研修に取り組んでいきます。

洲本市よりマスクケース 1,000 枚製作依頼

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



今年4月、洲本市のリサイクル活動のひとつ、リサイクルとして出された着物を使って何か作れないかという話が社協を通してありました。

相談の結果、マスクケースを作ることになりました。着物をほどいて生地に戻し、洗濯、型どり、裁断、そしてミシンで縫



ってボタンを縫い付けて出来上がり。縫うことが得意でなくてもアイロンかけや、くるみボタン作り、出来上がったものをパッケージするなどの作業があり室内班全員で取り組んでいます。着物ほどきで困難な部分は、色が暗めの生地は糸が見えにくいいためほどきにくい、型どりと縫製では生地が薄くて柔らかいと生地がよれてしまい真つすぐ仕上がらないなどありますが、それでも7月末で800枚が仕上がっています。あともう少し、1,000枚まで頑張ります。

(支援員 興津典子)

作業の感想

(宮田 和枝さん)

着物のほどき作業をしている時、縫い目を解くところが分かりにくく苦労しているが、支援員に教えてもらいながら作業しています。それも楽しみの一つになっています。とても嬉しいです。



おのころの家の仲間たちと一緒に自分ができる作業をしながら楽しく交流できたらと思います。

～淡路産玉ねぎ (ターザン) 多数発注のお礼～

7月23日に淡路玉ねぎ(ターザン)収穫が完了しました。全国各地からのお客様より100箱を超える注文が入り感謝しております。

おのころ農園の玉ねぎはご自宅用・ご進物用のどちらも皆様から喜ばれとても嬉しく思っております。お客様の喜びの聲が励みになります。今後ともよろしく願いいたします。

(おのころの家農業班の仲間)



2021/07/20

デイサービスでは、毎日午前・午後に体操、また週の取組で身体を動かしています。この度、新しくパターゴルフ台を地域の後藤朝一様が作成してくださり、個人戦で点数を競い楽しみました。これからも大切にに使わせていただきます。いつもありがとうございます。(デイサービス桜ヶ丘 竹内)

神戸長田ふくろうの杜
 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
 〒653-0836 電話：078-798-7940
 FAX：078-798-7941

七夕に託した願い
 生きがいデイサービス

七月七日は「七夕」。
 織姫と彦星を作り、短冊に願い
 ごとを書きました。「コロナが一日
 でも早く終息しますように」「いつ
 までも元気で、ろう高齢者！」「家
 族みんなが仲良く元気に暮らせま
 すように」「七夕、きれいなね」など、
 たくさんさんの願い事が書かれていま
 した。



願い事を書いた後は、自分専用の
 手作りのハンコをポンッ！中には「暑
 いね。頑張ってくださいね」と優し
 いエールの短冊も…。いつも利用者
 の皆さんから元気をもらっている職
 員です。

7月の趣味活動は七夕飾り、金曜
 日の灘デイサービスは毎月のカレン
 ダーに七夕飾りを追加して飾り。

月曜日の須磨デイサービスは壁に
 紙で作った笹を貼り付けて切り紙飾
 りや短冊を貼り付けました。

水曜日のふくろうの杜では5月の
 鯉のぼりに続き、利用者さんの作品
 を1階の食堂に七夕飾りを展示させ
 ていただくことにしました。笹は色
 画用紙を細長く切って貼り付け、そ
 こに飾りや願い事を書いた短冊を吊
 りしました。午前中の利用者さんは

創作活動に熱心で家で作って持って
 来られる方もいました。

午後からの利用者さんには短冊に
 願い事を書いてもらいました。願い
 事はやはり「コロナ退散」と「みん
 な仲良く」そして「デイサービスは
 楽しい」の短冊に職員はうれしく、
 ありがたい気持ちになりました。

これからも季節に合わせた壁画を
 作っていきたくと利用者さんも意欲
 满满です。食堂を利用される方にも
 是非見て頂きたいと思います。



▶ 新長田駅前にて花壇の水やり
 を交代で行っています

ふくろうの杜生きがいデイサービス

- ・須磨デイサービス (月) 須磨の家
- ・長田デイサービス (水) ふくろうの杜
- ・長田難聴デイサービス (木) ふくろうの杜
- ・灘デイサービス (金) 兵庫県立聴覚障害者
情報センター

★神戸市在住の65歳以上の方なら、どなた
 でもご利用できます。見学後、利用手続き
 できますので、ご希望の方は問合せくださ
 い。 生きがいデイサービス 木谷
 電話 078-798-7940・FAX078-798-7941

神戸施設建設募金

2021.8.1現在 募金合計額 **99,743,068 円**

(プレート募金 373人)

目標1億円まで、あと **256,932 円**

直近3ヶ月の推移	6 / 1	7 / 1	8 / 1
募金累計額	97,687,097	98,419,217	99,743,068
月間募金額	556,635	820,120	1,323,851
1億円まであと	2,312,903	1,580,783	256,932
1億円目標達成率	97.7%	98.4%	99.7%